

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700549		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-52		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町提出日	令和3年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470700549-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍になる前までは外出支援に力を入れており、入居者様が行きたいところや食べたい物があれば外出・外食に気軽に行くようにしていた。コロナ禍になってからは思うように外出できていないが、いつもとは違う施設内でのレクリエーションや行事に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染拡大が継続するなか、感染防止対策の一つとして家族等の直接面会を中止としているが、利用者が家族から孤立しないよう玄関先窓越しの面会、オンライン面会を提案する等支援している。認知症介護に深い知識と経験のある管理者・介護支援専門員は日常の介護業務も兼務することで、利用者・職員間のコミュニケーションは良好であり、利用者職員目線の思いや意向に添った支援が来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に職員全員で理念を唱和し、ケアに迷った時は理念に基づいたケアを実践するように心掛けている。	事業所理念と合わせユニット毎に職員個々の月間目標を掲げ、利用者の思いを受け止め、利用者に寄り添った介護が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事(溝掃除・草刈り・防犯パトロール等)に参加し、地域の一員として活動している。また、自治会と共に防災訓練や夏祭り(現在は休止中)を開催している。	コロナ禍で夏祭り等地域の行事が中止となり、利用者と地域との交流は出来なかった。職員が参加の地域の溝堀や防犯パトロール、事業所が主催の地域の防災訓練を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の独自開催や、地域包括支援センターと共に認知症サポーター養成講座を開催し、寸劇を通して受講者がより実感をもって理解できるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度よりコロナウイルス感染予防の為、開催できず。	コロナ禍で開催できなかった。	運営推進会議は、事業所の理解と外部からの意見を聞く大切な機会であることから、コロナ禍でも可能と思われる文書等で開催されることを希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあれば都度、市担当者に相談し助言を頂いたり、意見交換をしている。	コロナ禍であり、市との情報交換・相談事は電話で対応している。書類の提出等事務的な事項は、主にメールで行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回内部研修会を行い、身体拘束についての知識を得ている。また、帰宅願望等がみられる方に対しては、付き添って散歩に出かけたり、お話を傾聴したりし、寄り添ったケアを実践している。	身体拘束廃止ヒヤリハット委員会は隔月に開催し、毎月の職員会議に身体拘束廃止についての内部研修を行い、身体拘束のない暮らしを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことを伝達し、職員で共有している。また、着替えや入浴時に身体の観察をし、異常がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内研修を行い、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、重要事項内容について説明を行い、疑問点や不安な点は無いが、一つ一つ確認を行いながら納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉を大切に考え、できるだけ要望に沿うように、会議で検討し運営に反映している。	利用者の希望で「めはり寿司」を取り寄せ喜んでもらった。家族とは毎月発行の「まごころ新聞」とともに、利用者の暮らしの様子を文書で伝えている。窓越しの面会時、面会に来られない方には電話で意見や要望を聞き運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員の意見や理解を聞いて確認している。	管理者と職員間のコミュニケーションは大変良く、日常の介護の場や職員会議で気軽に話せる環境にある。レクリエーション担当者を決め、常に新しいアイデアの提案があり実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回必ず理事長面談があり、各職員の考えや思いを聞き出し、考課している。また管理者とは都度話ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を実践し、向上につなげている。外部研修にも参加する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は活発に行っていたが、コロナ禍の為、ここ数ヶ月は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の要望をお聞きし、プランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前から家族の話をしっかりと聞き、様々な情報を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前から家族の話をしっかりと聞き、他のサービスの方が本人様に合っている様子がみられた際は助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者に教えて頂いたり相談することで、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診等、家族と協力しながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防の為、面会は中止しているが、それ以前は友人が面会に来られることもあった。	コロナ禍で、現状は馴染みの人との面会や場所との関係継続は困難であることから、家族の付き添いによる専門医への通院、オンライン面会の提案やドライブを兼ね車中から馴染みの場所に出掛ける等の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見のいい人が隣に来るような席を配慮しており、困っている人がいると職員を呼んで下さる人など利用者同士の支え合いもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族が相談に来られる事もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から、把握に努めている。コミュニケーションが難しい方は、何が今一番必要なのかを考えている。	利用者の思いや意向は日頃の言動から把握、介護日誌に記録し、全職員が確認のうえ共有している。常に利用者個々の思いや意向に添った支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からお話を伺い、情報収集している。また、今までの暮らしのアンケートを実施し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子を把握し、生活記録や個人記録に記録し、担当者にアセスメントシートを作成してもらい、職員間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に状態に変化が無ければ、会議にて3ヶ月に一度モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	日々の介護記録と気づきから利用者毎の担当者がアセスメントシートを作成、3カ月毎に職員会議兼担当会議でモニタリングし、ユニット毎の計画作成担当で計画を見直し、介護支援専門員が内容をチェックのうえ計画を作成している。家族の思いは電話で聞いて計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報を共有しながら、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時必要な事を見極めて、時には家族の協力を得ながら対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、利用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望される医療機関や受診体制を優先し、安心して適切な医療が受けられるように対応している。	全ての利用者は事業所の協力医をかかりつけ医としており、協力医への受診は事業所が同行し、受診結果は家族に報告している。専門医の定期受診等は家族が同行している。医師との連携は看護師が対応し、適切な医療支援が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあれば看護師に相談し、処置や受診等の指示を受けている。24時間のオンコール体制で、緊急時は夜間でも相談する事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、サマリー等で情報を共有することで安心して治療にあたって頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のカンファレンスで、何かあればその都度話し合いを行なっている。終末期になれば、それに対応したプランに変更している。	重度化や終末期の状態に近づけば、協力医と家族を交え看取りについて話し合い、家族の希望があれば、協力医の指示と医療連携体制の範囲で看取り支援をする方針である。現在は看取り支援に該当する利用者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習やAEDの使用研修などを行い、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、日中・夜間を想定し行なっている。利用者様と一緒に、想定した避難訓練を行い、日頃の備えに対する意識を高めている。	事業所は津波・洪水・山崩れ等、危険が少ない立地にある。防災訓練は年2回昼間と夜間に実施しており、事業所が中心になり地域の防災訓練も実施している。食料やトイレ用の2ℓのペットボトル、携帯用ガスコンロ等備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重した言葉使いや接し方をして いる。プライバシーを意識した対応を心掛 けている。	着替え・排泄・入浴時の介助では羞恥心を害 しないよう、扉やカーテンで他人の目に触れ ないよう常に心掛けている。日々の暮らしで は馴れ合いにならないよう、礼儀ある言葉か けを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方でも、二者選択で自己 決定をして頂いたり、会話の中から希望を 聞き出し実現できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等は順番に行っている為、職員の都合 を優先させて頂いているが、それ以外の時 間はお好きなこと(塗り絵やパズルなど)をし て頂けるよう、その方にあった支援を行なっ ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう 支援している	定期的な整容以外でも、衣服が汚れればす ぐ交換し、さっぱりと心地よく過ごして頂 けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来る範囲で、食事の盛り付け や後片付けを手伝ってもらっている。	食材は専門業者に委託し、栄養バランスの取れた 調理済みの冷凍食品を湯煎解凍、事業所で準備 したご飯・みそ汁を利用者も参加して盛り付けし、 楽しい食事タイムとなっている。行事食にはお好 みの寿司の出前、おやつは利用者も一緒に手作 りのケーキ・たこ焼き等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個々の状態を把握し、生活記録に残すこと で健康管理をしている。あまりにも摂取量が 少ない時等は家族と相談しながら個別で食 べられるものを食べて頂く等、その方に合っ た支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に、自立または介助にて口腔ケアを 行なっている。夕食後に義歯の消毒も行っ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄パターンを把握して、トイレ誘導やパッド交換を行なっている。	自立でトイレ排泄できるのは3名、6名は車イス使用、殆どの利用者は一部介助か全介助であるが、排泄チェック表をベースに声掛け誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は1名ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂って頂いたり、時には腹部マッサージを行う事で、個々に応じた支援を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は順番に行っている為、職員の都合を優先させて頂いているが、週2回以上は入浴して頂けるように考え、個々人のこだわりを把握し、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	概ね週2回午前入浴としている。一対一の介助でリラックスした雰囲気でお話し、利用者個々のゆっくり、ゆったりペースの入浴となっている。季節の菖蒲湯、ゆず湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の希望や様子を見ながら、声かけや居室への誘導を行なっている。気持ちよく休んで頂けるよう空調にも気を付けている。日中も夜間に影響が出ない程度で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員間でダブルチェックを行い、入居者が飲み込む迄確認している。変更に関しては看護職員と連携し、状態の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事への参加や、コロナウイルスの流行前までは、気分転換に外食や買い物にも出かけていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルスの流行により外出できない為、車内でのみのドライブや、ホームでの玄関先で外気浴を楽しまれている。	コロナ禍で以前のような外出の機会は困難になったが、気候が良ければほぼ毎日玄関先で外気浴したり、中庭のプランターで育てたトマトの収穫を楽しんでいる。コロナ感染防止に気配りしながら、ワゴン車でドライブする等の外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所で保管しており、必要時に職員と一緒に買い物をしていただいたが、本人が直接お金を持って買物する事は無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望にて職員が代行して電話を掛けることはあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように清潔に配慮し、季節の壁面や写真等で季節を感じて頂き、居心地よく過ごせるようにしている。	今回の調査ではコロナ禍で事業所内の見学が自粛となったが、管理者・職員との面談から、両ユニットのリビングの中央に青空が仰げる中庭があり、壁には利用者の季節毎の作品が飾られ、年間通して季節感を大切に空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーの活用や席の移動により、楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスやテレビなど持参して頂き、自宅のように居心地よく過ごせるように工夫している。また写真や作品などを飾る事で、楽しい気持ちで過ごせるように支援している。	今回の調査では、コロナ禍で利用者の居室見学が自粛となったが、管理者との面談から、ベッド・エアコン・洗面台・クローゼット・カーテン等は事業所で設備し、利用者は使い慣れたタンス、家電や小物を持ち込んでいる。壁にはアイドルや家族の写真が飾られる等、お好みの部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂に名札をかけて理解して頂く事で、自ら行ける様に支援している。また安全に生活が送れるように、家具の配置や車椅子の配置などに配慮し、安全な環境づくりを心掛けている。		